

## 部長・副部長 紹介

生きものを研究する専門家や自然保護活動に取り組むなどと協働で部会を設けています。



石原則義  
(愛知県立自然の会)  
アライグマ対策部会



大矢美紀  
(山川リグリーマップ)  
ミシシッピアカミミガメ対策  
部会



鬼頭 保  
(なごや奥山の森づくりの会)  
ミシシッピアカミミガメ対策  
部会



小曾崇之  
(たぬみの自然研究会)

外來スイング対策部会

ため池部会



神原 靖  
(名古屋市農場科学研究所)

ため池部会



柴田美子  
(水辺の森と八尾瀬をやせる会)  
アライグマ対策部会



高山博好  
(なごや市認証学校 二輪会)  
生きもの部会



鶴川正子  
(なごや奥山の森づくりの会)  
外來スイング対策部会、ため  
池部会



谷口義則  
(名古屋大学理工学部園芸植物  
学科)

ため池部会



研谷 厚  
(花・水・緑の会)

ミシシッピアカミミガメ対策  
部会、外來スイング対策部会



畠田啓介  
(名古屋大学農場科学研究所)  
生きもの部会



新實 康  
(日本公司の企画知識支援  
部会) ネコタリックデータ  
ベース部会



横木辰史  
(名城大学農学部園芸植物学科)  
外來スイング対策部会、生き  
もの部会、生物博物館モニタ  
リングデータベース部会



間野隆裕  
(名古屋里山向食会会員)

鶴田洋介の生き物講演と外來生  
物対策部会、生物博物館モニタ  
リングデータベース部会



眞弓浩二  
(林木研究所)

鶴田洋介の生き物講演と外來生  
物対策部会、広報部会

## 市民生きもの調査員募集

市民調査に登録いただいた方には、協議会が取り組む生きもの調査活動などへの協力をお願いするとともに、協議会の活動状況について情報提供いたします。

ご登録いただいた場合は、①連絡先メールアドレス②住所③氏名④所属(NPO等に所属している場合)⑤学生・社会人・その他の別⑥参加を希望する活動——を記入の上、メールにてお申し込みください。なお、主にPDF形式での情報提供となるため、パソコンで受信可能な電子メールアドレスでの登録をお勧めします。

応募先 bdnagoya@kenkyokyoku.city.nagoya.lg.jp

## 発行元 なごや生物多様性保全活動協議会(事務局:なごや生物多様性センター)

住所:名古屋市天白区元八事丁目230番地 TEL: 052-831-8104 FAX: 052-839-1695  
e-mail: bdnagoya@kenkyokyoku.city.nagoya.lg.jp

## 発行日 平成24年2月5日(日)

※「みんなで守ろう なごやの生きものたちは、なごや生物多様性保全活動協議会の活動について皆さまにお知らせするため、不定期で発行しています。」

このニュースレターは、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

# みんなで守ろう なごやの生きものたち

vol.2

## 大根池で池干しをしました “生物調査と在来生物の保全をめざして”

平成23年11月3日(木・祝) 天白公園の大根池で池干しを行い、  
市民、研究者、専門家や児童・学生など約600人が池に入りました。



参加者は、深いヘドロの中をスタッフの誘導で  
ゆっくり進み、鳥の周辺や崖岸いでタモ網や手  
づかみで生物採集をしました。

子どもたちは、ヨシ原治いの浅いか所を一生懸命に漁ですくったほか、池内の「島探検」や、採  
集した生物の観察を行いました。

モツゴなどの小魚、スジエビなどのエビ類、ヒ  
メミズカマキリなどの水生昆虫が多く、市内では  
ほとんど見られないオタニシやヌマガイも見つ  
かりました。ブルーギルやブラックバスが見つか  
らず、コイも少ないとことから、大根池は小さな在  
来生物がたくさん生き残っている貴重なため池  
であることが分かりました。

### ■池干しに伴う事前・当日調査で確認された生物

#### 生物種

カツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、ハジ、カワセミ、ツ  
バクセイ、モズ、ノビタキ、コサギ、ツバメ

ニホンミツガサ、クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、イシガメとクサ  
ガメの交雑種

爬虫類 \*ウシガエル

魚類 モツゴ、フナ、カタダヤシ、タチウオ、パラナゴ、カムルチー、ラブナ  
ラブナ

鳥類 オオタカ、ヒメタカ、ヌマガイ、サカマキガイ、イセナミマイマイ、  
ナメクジ

甲殻類 スジエビ、ミミズカエビ、アメリカザリガニ

椎骨類 ミソゾウ、ヒジ、マリハサギ、フサフササギ、マツモ、キショウツ  
ホテイカダモ、トライガミ、ヨシ、ヒカゲマ、アサギ、ガブツバ、  
コカダモ

無脊椎類 ユリカモメ、カムルチー、ミシシッピアカミミガメ、ウシガエル、  
ホテイカモメなどの外來生物を取り巻きました。

# なごや生物多様性保全活動協議会は、なごやの生物多様性を守り育てるために、以下の活動を行いました。

なごや生物多様性保全活動協議会では、これらの活動のほか、生物情報モニタリングデータベースの構築、協議会の活動を広報・啓発するための活動展示会、地域で取り組まれる保全活動への支援を行いました。このような活動に参加いただける市民生きもの調査員を募集しています。詳細は裏面をご覧ください。

## ①アライグマ対策

本年度のアライグマ防除対策は、自動撮影カメラを設置してアライグマの生息状況を確認することに始めました。八竜池では数ヶ所に自動撮影カメラを設置して、アライグマの写真を60枚近く撮影しました。8月初旬より幼体のアライグマが多数撮影されるようになり、1枚の写真の中にも最大で2個体のアライグマが写っていることもあります。幼体のアライグマ集団は10月になっても撮影されています。これらのデータは、効果的トラップの設置時期を知るために基礎的資料となります。また、アライグマ以外にもモクヤギイヌ、ネコが撮影されています。貴重な在来生物が生息する八竜池地においても、ペットとして飼育されている動物が頻繁に侵入していることがわかりました。

自動撮影カメラは1月現在、平和公園、東山新池、名古屋城外堀、水生園、金井農園に設置されています。また、2月より八竜池等でトラップの設置を行なっていく予定です。



自動撮影カメラに写ったアライグマ



自動撮影カメラに写ったイヌ

## ②ミシシッピアカミミガメ対策

本年度のミシシッピアカミミガメ防除対策は、桶田川、山崎川、隼人池、東山新池、竜巻池、胡蝶ヶ池、大根池、細口池で行ないました。池から逃げたアカミミガメの頭数は250頭位近くになります。これらの池では、来年度も継続してカメ類のモニタリングを行う予定です。

今回の防除対策では、いくつかの特筆すべき結果が得られました。7月に行った電巻池の調査では、これまでほとんど見られていなかった淡水水生類の産卵巣が見つかりました。これらの卵を回収し、なごや生物多様性センターで孵化させたところ、3ヶ所の廊からアカミミガメが、2ヶ所の廊からクサガメが孵化しました。クサガメについてはセンターで育てて、電巻池に帰します。孵化したアカミミガメについて、研究・展示のためにセンターで飼育します。今回のように、アカミミガメの卵を回収することは、防除にとって有効な手段のひとつなので、来年度も継続して調査を行なう予定です。



カメの産卵巣



孵化した子ガメ

## ③生きもの田んぼ

市民の皆さんに田植えや生き物観察、稻刈り、餅つきを「ビオでん」で体験していただきました。「えっ、ビオでんって何?」と思われた方もいらっしゃるでしょう。

もととは2010年度から市内の幼稚園・保育園児に田んぼ体験(2009年度からバツツキ栽培実施)をもらうための場として設けたものを、2011年度には広く市民の皆さんに田んぼの場として提供するようになったのがビオトープ田(ビオでん)です。なごや生物多様性保全活動協議会の発足とともに南陽地区のビオでんで生きもの調査を始め、同時に都市部の生物多様性を探るために近隣の里山である西の森のボランティアと夜間昆蟲調査を協働で行なっています。

昨年は夏、秋に魚類・昆蟲、秋に植物を調査しました。この結果をもとに、2012年度は時期を見直して春から調査を実施する予定です。その際には、専門家だけでなく、広く市民の皆さんにも生きもの調査に参加していただき、名古屋の生きものボテンシャルを体感していただこうと考えています。田植えや稻刈りはもちろんですが、

田んぼの生きものの探しもすごく楽しいですよ。生きものを触れなかつたお子さんも参加してくれたのですが、田んぼ体験の帰りにはアマガエルやカマキリを肩にのせて帰ったくらいです。



ニホンアマガエル／矢崎亮郎氏撮影

## ④外来スイレン対策

ヨーロッパを原産とするセイヨウスイレンなどから作られた露芸品種で、赤や黄色、白色などきれいな花が咲くことから、名古屋市のため池でも導入され繁殖しています。しかし、池の水面を覆い尽くすほどに増えた外来スイレンは、他の植物の発芽や生き物を阻害するため、防除と効率的な除去手法の開発が必要です。

そこで昨年年の冬に外来スイレンの上へ遮光シートを敷き、そのシートを今年はがしてみました。すると外来スイレンの根茎が全てなくなっていました。そこで今年も別の場所に敷いてみます。ただ、昨年使った時は大きな労力を必要だったため、いろいろ省力化の工夫をしました。来年の効果が楽しみです。

また、市内全域の外来スイレンを調査してみました。すると110のため池のうち24方所の池に外来スイレンが繁殖していました。5つの池に2つは生えているという計算です。今後は繁殖している池のうち、貴重な水草が生える池に絞って調査と除去を行なっていく予定です。



セイヨウスイレン／小宮原之氏撮影

## ⑤熱田神宮の自然調査

1900年の歴史を誇る熱田神宮の森は、都心部に残された貴重な社叢林です。この神宮森について、水文、水質、大気、植物、昆虫、クモ類、陸生貝類の調査を実施しています。

これまで、雑種束植物64科153種、昆虫類16目114科376種、クモ類63種、貝類20科が記録されました。RDB掲載種や平地の稀少種(ナナフシドモなど)が確認され、神宮林が遺存的な生息地となっていることがわかりました。一方で、草本類やそれにつく草本昆蟲が少ない事もわかり、コイの繁殖と共に池の水質が悪いためか、トンボ類など水生昆蟲はほぼ姿滅状態でした。人の往来の激しさから、外来種(シリオリゲゼルなど)も多く確認されました。

気温調査では、林内の気温は周辺より低く、日射を遮る樹木の効果が大きいことが推察され、林苑内に見られる流水には、溶存酸素が高い所や、深層から揚水している地下水もあることが判明しました。



シリオリゲゼル／川瀬基弘氏撮影



ナナフシドモ／水野利源氏撮影